

巻頭言

会報第13号2報の発刊にあたって

日本医療秘書実務学会 会長 田中伸代
(川崎医療福祉大学)



皆様には、日頃より学会の活動にご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、最近の大雨被害に遭われた地域の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、先日政府より示された医療 DX の推進に関する工程表案を見てみると、ここ 2-3 年の間に、医療情報のためのプラットフォームの構築がさらに進み、診療報酬改定や診療情報の共有化についても大きな変化が起こる見込みです。さらに、これらの中には、様々な形で AI の導入が行われていくことでしょう。AI の進歩については文字通り日進月歩であり、明日には何ができるようになるのか、非常に楽しみです。

このような変化に伴い、どの職場においても、業務フローの見直しなどが行われていくことと思います。今までの情報共有化の形とは異なり、専門家間のコミュニケーション増強だけではなく、個々の人間を主体とした形が主になります。その中では、一層、情報の質が求められるようになるでしょう。

教育にあたっては、変化を見据えたカリキュラムや授業内容の更新が必要となりますが、教員本人の意識改革が重要でしょう。

職場では前例にとらわれず、標準化を意識した情報構築を行い、それに対応できるような職場教育も必要になってきます。さらにこれらの前提として、様々な基盤の整備も行わなければなりません。私事ですが、職場ではこのようなチームにも加わっており、日々の積み重ね、フォローとメンテナンスの重要性を噛み締めているところです。

本学会での取り組みが皆様の実践に対して、少しでも貢献できればと思います。全国大会、学会誌への投稿、イベントへのご参加など、学会をフルにご活用ください。



目次

巻頭言	1
第14回全国大会	2
第14回全国大会のご案内	2
セミナーを開催しました	3
2022年度各種委員会の活動報告とお知らせ	5
学会員を募集しています	6
学会員の紹介	7
事務局からのお知らせ	8
年会費納入のお願い	8
学会への届出について	8
編集後記	8

第 14 回全国大会

第 14 回全国大会のご案内

大会運営委員長 直江一彦

(医療法人顕生会 蓮田病院)



日本医療秘書実務学会の全国大会が今年で 14 回目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが 2 類から 5 類へと緩和された今、我々は対面での開催も検討いたしました。しかし、最終的には昨年同様、第 14 回大会もオンラインで開催することとなりました。

本来であれば、皆様と対面でお会いし、共に大会を開催したいという思いは強くありますが、オンラインでの開催もまた、遠方からの参加や短時間のみの参加、それに加えて発表の機会を提供できるというメリットがあると考えております。オンラインならではの特性を活かしたこの大会に、ぜひ多くの皆様のご参加をいただければと思います。

今年の全国大会のテーマは「病院事務職員の未来を見据えて」と設定いたしました。診療報酬制度における医師事務作業補助体制加算制定から 15 年という節目の年ですので、これまでの 15 年間を振り返り、未来の発展とキャリアデザインについて考えるシンポジウムを予定しています。また、今回からは口頭発表だけでなく、新たにポスターセッションも加えるなど、より深い学びと交流の場を提供することを目指しております。

私たちの学会は、実務者だけでなく、教育者の視点も重視しています。新人からベテランまでの業務経験の差、また実務者と教育者の間の垣根を取り除くことで、多角的な議論ができ、新たな発想や気づきを生み出す学びの場となると確信しております。

日々の業務に励む皆様のご発表や、他の現場での成功事例の共有を通じて、新たな知見を得られることを期待しております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本年度は埼玉県での開催を予定しておりましたが、オンラインという形になりました。しかし、これを機に、画面越しではありますが、多くの皆様と交流できる機会として捉えています。皆様とお会いできることを楽しみにしております。

日時：2023 年 8 月 27 日（日）総会・全国大会（前日に役員会）

場所：オンライン（ZOOM を予定）

<シンポジウム>

医師事務作業補助者のキャリアデザインを考える～「医師事務作業補助体制加算」の新設から 15 年～

（座長）医療法人社団白梅会 小林利彦氏

（シンポジスト）

総合大雄会病院 MC 課 小島敏美氏

山口県立総合医療センター 医事課長 中元裕美氏

川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科 准教授 黒木由美氏

松本市立病院 病院長 中村雅彦氏



セミナーを開催しました

2022年度より、多くの方が実務に活かすことができるよう企画委員会でセミナーを企画しています。本報では第4、5、6回のセミナーの様子をお届けいたします。



第4回

「言葉の力とメンター」 ～今すぐ誰でもできる簡単なストレス対処～

2022年11月25日

「ストレス社会を前向きに生きていくために」

仁宮 崇（中国短期大学）



この度は学会セミナーの講師を務めさせていただき、誠にありがとうございました。

「若者が希望をもって生きられるように」という思いで授業をしている内容の一部を皆様に情報提供の形で発表させていただきました。

最初に人間関係構築において欠かせない傾聴、相談することの有効性についてデータで説明しました。カウンセリングへの抵抗を緩和していきたいと考えています。

また、紹介致しましたストレス対処は紙とペンがあれば誰でも行えることを目指したものです。自分を勇気づける言葉を実際を書いてみる、自分が尊敬する人や目標としている人ならストレスに直面した時どのように対処するか、または自分にどのような言葉をかけてくれるか、これも言語化していただきました。頭の中で考えるだけでなく、紙に書くことでストレスを視覚化して客観的に観察することにも繋がります。

一人でも多くの方がストレス社会を前向きに生きていけるように今後も教育に励んでまいります。

参加者の声

とても良いお話をいただきました。また、このようなお話を聞く機会があるといいなと思います。

講師の先生をはじめ、企画してくださった皆さま、運営の皆さま、ありがとうございました。

ストレスがない職場が理想かもしれませんが、なかなかそうはいきませんので上手に付き合い、発散しながら頑張りたいです。

日常に取り入れやすくとっても勉強になりました。



「日頃どのようなストレスを感じていますか」とのアンケートには、「職場での人間関係」「業務量」「職場環境」と職場でのストレスが挙がっていました。

第5回
第6回

「人前で話すということ」

2023年3月3日、17日

「挑戦は成長の原動力」

大場さわこ（サンフラッシュ大場さわこ事務所）

3月のセミナーでは多くの皆さまが熱心に受講してくださいました。ありがとうございました。

私には15年以上前から追究を続けていることがあります。それは、文章等で説明しにくいものを言葉と声でわかりやすく、できる限り科学的に伝えるということです。

人前で話す時に大切なことには、話すリズム、テンポ、音感や音程、時間や空間の認識などに関係する経験知や暗黙知も含まれ、マニュアル化しにくいものが多く存在するからです。セミナーでは、それらをいくつか体感して頂きました。

また、その分野の研究が進んでいるという新聞記事もご紹介をしました。

私は子どもの頃から最も苦手としていた「話すこと」に挑み、それを生業とし現在に至ります。あまりに奥が深く、いつまでたっても満足いく境地へ達することができませんが、だからこそ続けているのかもしれません。

結びにあたり、ウェブセミナー実施にご尽力くださいました田中会長と河原企画委員長にお礼を申し上げますと共に、本学会での学びの機会を通して会員の皆様が益々ご活躍されますことを祈念申し上げます。

共に頑張りましょう！



参加者の声

大場先生のお話に引き込まれ、一気に先生のファンになりました。とても奥の深いテーマだと思います。ありがとうございました。

講義内容をそのまま大場先生が実践されていたので、すごく腑に落ちて納得がいく講義でした。

マスク生活になり、自身の顔を見ることが少なくなり、更に表情も見なくなりました。今回、発声練習で自分の口角が下がっていることに気づき、驚きました。今後は、朝、鏡を見るときに発声練習をして注意したいと考えます。ありがとうございました。

講義内容はもちろんですが、大場先生のお話になるトーンやスピードはいつも参考になると思い、真似るようにしています。学ぶ機会を与えてくださりありがとうございました！

経験上のお話や新聞記事などのお話もとても興味深く有益でした。ありがとうございました

人と話すためのセミナーはなかなかないのでとても貴重でした。大場さんのようにゆっくり抑揚をつける話し方を見習おうと思います。

2022 年度各種委員会の活動報告とお知らせ

学会賞選考委員会

委員長 内山伊知郎（同志社大学）

委員 小林利彦（医療法人社団白梅会）

西川三恵子（九州共立大学）

山本智子（川崎医療福祉大学）

大塚 映（BSCM 総合研究所）

中村則子（香蘭女子短期大学・非）

2022 年度の学会賞選考は、6 名の体制で実施いたしました。医療秘書実務を科学的にとらえようという力のこもった論文が多面的に掲載されました。学会賞選考審査の結果、その中から奨励賞が 4 本選ばれました。選考にあたっては、掲載論文を厳格に審査のうえ、今後の更なる発展が期待される論文に奨励賞を授賞しています。今回は論文賞の対象はありませんでした。

今後、会員の皆様の研究がますます積み上げられ、医療秘書学の研究水準が高まるように、お力添えをよろしくお願い申し上げます。

論集編集委員会

委員長 大塚 映（BSCM 総合研究所）

委員 田中伸代（川崎医療福祉大学）

小林利彦（医療法人社団白梅会）

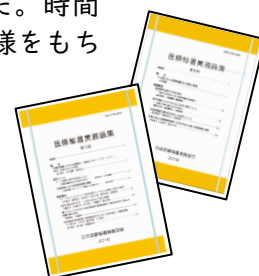
園田美樹（熊本医療センター）

西山良子（関西女子短期大学）

田村久美（川崎医療福祉大学）

2022 年度は、先日皆様にお届けさせていただきました「論集第 13 号」の発行に向け、オンラインによる委員会の開催とメール連絡による幾度もの査読結果の検討など、様々な活動を行いました。

今号も昨年度同様、お仕事で日々お忙しい中、多数のご投稿をいただきました。時間的制約などからその後ご辞退などもございましたが、皆様の粘り強い執筆のお陰様をもちまして、第 13 号は研究ノート 1 編、実践報告 3 編の計 4 編を掲載することができました。ご投稿の皆様、査読をご担当くださった皆様、誠にありがとうございました。今年度 8 月末の全国大会もオンラインでの開催となっておりますが、ご発表と共に、論集へのご投稿をご検討くださいましたら、幸いです。ぜひ、お待ち申し上げます。



広報委員会

委員長 土井有美子（中国中央病院）

委員 田中恵子（ミッションウィル）

早田真樹（福岡医健・スポーツ専門学校）

武村順子（宮崎学園短期大学）

黒木由美（川崎医療福祉大学）

2022 年度の広報委員会は 5 名で活動を行い、会報誌を 11 月、6 月の 2 回発刊いたしました。第 1 報では、第 13 回全国大会の様子を中心に、第 2 報では第 14 回全国大会のご案内、委員会活動報告、企画セミナーの概要等を掲載しております。

会員外の方へも広く広報できますよう、公開して差し支えない範囲で一部を抜粋しホームページ上で公開いたしております。広報誌をとおして多くの方へ多岐に渡る情報をお届けできますよう、今後も精進してまいります。第 13 号の会報誌でも、多くの方々に原稿のご執筆を賜りました。委員一同心より御礼申し上げます。会報へのご意見、ご感想等がございましたらご遠慮なく学会事務局までお知らせください。

企画委員会

委員長 河原秀明（しげい病院）
委員 森 靖之（高松短期大学） 大場さわこ（サンフラッシュ大場さわこ事務所）
直江一彦（蓮田病院） 仁宮 崇（中国短期大学）
大木啓太郎（音羽記念病院） 上野節子（倉敷平成病院）

委員会の研修会として4名の先生をお迎えし、計5日間をすべてオンラインで開催しました。

- 7月29日（金） 田中恵子（ミッションウィル代表）
「接遇クレーム対応基本編」 ～前向きになれるといいな～ 参加31人
- 9月30日（金） 荒谷眞由美（川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科教授）
「アンケート調査を成功させるために」～質問の設定と統計処理の基礎～参加36人
- 11月25日（金） 仁宮 崇（中国短期大学 総合生活学科 准教授）
「言葉の力とメンター」 ～今すぐ誰でもできる簡単なストレス対処～ 参加16人
- 3月3日（金）、3月17日（金）大場さわこ（サンフラッシュ大場さわこ事務所代表）
「人前で話すということ」 （2回シリーズ）参加計45人

会費を学会員は無料、非学会員は1回1000円で開催しました。

今年度は8月の全国大会後の日程を計画し、現場に行かせる内容でより気軽に参加できるものを目指したいと思っています。テーマや講師の希望がありましたら、お気軽に学会事務局<office@jsams.jp>までリクエストください。

学会員を募集しています

本学会では、医療秘書、あるいは広く医療事務に関心を持つ医療機関の実務者の方々、教育者・研究者の方々のご参加をお待ちいたしております。

実務者の方々

- ★ 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に従事している方、関心のある方
- ★ 医療機関で、医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育、指導をしている方
- ★ 今後、医療秘書を目指そうとしている方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発に関する情報を求めている方
- ★ ホスピタリティや接遇対応マナーの能力向上に従事している方、関心のある方

教育・研究者の方々

- ★ 大学・短期大学・専修学校などにおいて医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の教育・指導に携わっている方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務の能力開発、指導方法、ホスピタリティや接遇対応マナーなどに関する教育・研究に関心のある方
- ★ 医療秘書、医師事務作業補助者、あるいは医療事務に関する情報を求めている方

会員特典

- 本会が主催する全国大会などで研究や、実践の成果を発表できます。
- 本会が主催するワークショップや研修会に参加できます。
- 医療機関の方や、教育関係者、研究者の方との交流ができます。
- 機関誌『医療秘書実務論集』に論文や報告などを投稿できます。
- 『医療秘書実務論集』を無料送付します。
- 学会員の方は、メディカルオンライン上の学会誌を無料で閲覧できます。
- 『会報』を無料送付します。

会費

- (1)正会員 6,000 円
- (2)学生会員 3,000 円
- (3)賛助会員（団体）一口 10,000 円
- (4)法人会員 一口 20,000 円

学会を通して
私たちと一緒に
学びませんか



学会員の紹介



医療秘書が関わる医療安全対策

井上雅子（新潟県立中央病院）

当院は新潟県上越市で「県民に信頼され地域と共に歩む病院」を理念とした県立病院です。上越地域の基幹病院（524 床 24 診療科）として高度急性期医療を担い、地域の最後の砦として 2 次医療圏内での診療の完結を目指しています。

当院では 2009 年から医師事務作業補助者（以下、医療秘書）を導入し現在は 50 名で日々業務を行っています。

当院は外来配置が基本のため、全員が一部を除く各外来に配属されています。外来陪席を主業務として、医療文書作成、レジストリ入力等を行っています。その中でも医療安全の一環として医療秘書導入当時から画像・病理診断等の未読チェック、他科コンサルティング返事の確認を重点的に行っていることが特徴です。医療秘書導入前は看護師が行っていましたが、普段より医師と良好なコミュニケーションをとっている医療秘書が行うことで、医師への依頼もスムーズに進み、現在は未読件数が減少しています。

患者さんにいちばん近い存在の医療秘書が医療安全に関わることで、病院・患者さんにとっても安心安全な医療を行っていることを確信しています。



県民に信頼され
地域とともに歩む病院を
めざします



忍ヶ丘のほととぎす ～宮崎学園短期大学の紹介～

武村順子（宮崎学園短期大学）

本学一帯は「忍ヶ丘^{しのぶがおか}」と呼ばれ、その由来は、幕末の儒学者、安井息軒先生が 1824 年に詠んだ「今は音を忍ヶ丘のほととぎす いつか雲井のよそに名乗らむ」という歌にあります。幕末の若者たちが郷土を牽引するために切磋琢磨したこの地で、本学学生も互いに励まし合いながら学び、1965 年の創立以来、卒業生数は 2 万人を超えました。

本学は、建学の精神を「礼節・勤労」とする、保育科、現代ビジネス科、専攻科（福祉専攻）を有する男女共学校です。その中で、現代ビジネス科「メディカル秘書コース」においては、日本医師会認定医療秘書養成のカリキュラムを軸に、キャリア教育と医療マネジメントの知識習得が可能です。これらの専門教育には、2 名の専任教員の他、医療現場で活躍する薬剤師、病院職員など経験豊富な方々のご協力もいただいております。

本コースが設置され 17 年目となりました。医療秘書教育・研究を通して、医療改革の一助となるよう今後も尽力して参ります。



事務局からのお知らせ 年会費納入のお願い

2023（令和 5）年度、また今年度以前からの年会費納入をお忘れになっていませんでしょうか。

学会関連のお知らせ等の発行や送付は、学会員の皆様が納めていただく年会費によりさえられておりますので、未納の方はすみやかに下記口座宛に振込みをお願いいたします。

また、年会費を2年間未納の方は、会則第8条2により自然退会となります。なお、自然退会となりましても、退会までの年会費のご入金をお願いいたしますので、ご注意ください。

【年会費振込み先口座】

中国銀行 川崎学園出張所

口座番号 1294871

日本医療秘書実務学会（ニホンイリョウヒシヨジツムガッカイ）

学会への届出について

ご都合により退会をご希望の方は、退会手続きをお願いいたします。
日本医療秘書実務学会のホームページ上部「入会手続き」内に「退会届」の書式がございますので、記入・捺印のうえスキャンしたデータを事務局宛にメールでお送りください。

QRコードから
ホームページが開けます。



編集後記

日本医療秘書実務学会『会報』第13号2報をお届けいたします。今号は、委員会活動報告および企画セミナーの様子を中心にお送りいたしました。

今年も暑い夏になりそうです。みなさまも熱中症等、お気を付けてお過ごしください。
全国大会でお目にかかれましてを楽しみにしております。



広報委員長 土井有美子（中国中央病院）
広報委員 早田真樹（福岡医健・スポーツ専門学校）
田中恵子（ミッションウィル）
武村順子（宮崎学園短期大学）
黒木由美（川崎医療福祉大学）

日本医療秘書実務学会『会報』第13号2報／2023年6月30日発行

〒701-0193 岡山県倉敷市松島 288

川崎医療福祉大学医療秘書学科内

<https://jsams/wp/>

E-mail: office@jsams.jp